

平成23年度 大学職員情報化研究講習会 ～基礎講習コース～ 開催要項

<http://www.juce.jp/kenshu/kisoko2011/>

主催：公益社団法人私立大学情報教育協会 大学職員情報化研究講習会運営委員会

開催趣旨

大学が掲げる「学士力」や教育の質の保証を実現し、次代を担う人材育成、国際化への対応や生涯学習など、大学教育に対する時代の要求に応じていくためには、戦略的な計画立案と教育環境の構築が不可欠であり、大学職員には、大学の直面する課題について、その解決に必要な情報を収集、分析、評価し、解決策を提案・実行する、情報活用能力と実行力が求められる。

本協会では、大学職員に求められるこれらの能力養成を支援するために、「基礎講習コース」（本コース）と、専門性を考慮した分科会を構成して、事例研究を踏まえて研究討議する「応用コース」（11月開催予定）の、2つの研究講習会を実施している。

本コースは、大学を取り巻く環境や求められる役割、大学職員に求められる能力、大学運営等における情報の活用事例を講義で紹介する。勤務年数の浅い方々や他業種からの転職者には大学という職場や職員の役割を学ぶ機会を、中堅層や管理職には自大学、自己の職場、自己の役割を振り返る機会を提供するとともに、日常の勤務では経験できない、多様な経験や価値観を持つ他大学職員とのグループ討議を通して、問題発見から解決に向けてのプロセスを経験し、情報活用の重要性を理解し、その活用による問題解決能力を高めることを目的とする。

1. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を獲得することを目指します。

- ① 大学を取り巻く環境、社会が大学に求める役割についての認識を深める。
- ② 大学職員に求められる役割と能力（「職員力」）について理解する。
- ③ 情報を活用することの重要性を理解し、その活用による問題解決能力を高める。
- ④ 問題解決のプロセスを実践し、理解する。
- ⑤ 参加者間の人的ネットワークを構築する。

2. 進め方

本コースのねらいを達成するために、次のステップで研修を行います。

- ① イントロダクションでは、大学の使命、大学職員に求められる能力や姿勢について説明します。
- ② 講義では、大学を取り巻く環境の変化、大学の運営や意思決定、学修支援や学生指導における情報活用事例を踏まえて、情報を活用することの重要性について説明します。
- ③ グループ討議では、講義を参考に各自が職場における課題を洗い出し、グループとしてのテーマを設定し、討議や創造技法を用いた分析等とおして問題解決のプロセスを経験します。
- ④ 本コース参加の総括として、“自己のアクションプラン”を作成します。

* グループ討議は8名程度のグループで行います。

* 各プログラムにおいて学習目標を具体的に示すとともに、その到達度を評価するための指標を提示します。これは、受講者全員が目標を共有するとともに、ひとり一人が自らの学びを省察しながら、より主体的に講習に取り組む意欲を喚起することを目的としています。

* 過去の開催報告は、<http://www.juce.jp/kenshu/> をご覧ください。

3. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員（当協会への加盟・非加盟は問いません。）

4. 日程：平成23年7月6日(水) 12時45分 ～ 8日(金) 正午解散

5. 会場：浜名湖ロイヤルホテル

(〒431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1 ☎053-592-2222)

- * 本研修は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。
- * 原則1部屋2名で、部屋割りは当方で行います。健康管理については十分ご注意ください。
- * 最寄り駅 JR 東海道本線「舞阪」駅（浜松駅より約5分）より送迎バスを用意しております。

6. 募集定員：200名

7. 参加費：加盟校・・・1名につき28,000円 / 非加盟校・・・1名につき56,000円

参加費の支払い方法は、「9. 参加費の支払い」をご覧ください。その他に、宿泊費（2泊5食付）として27,500円を1日目受付時に直接ホテルへお支払いください。

8. 申込方法

各大学で参加者を取りまとめ、**6月24日(金)**までに、Web サイト、もしくは、本開催要項添付の「参加申込書」にご記入いただき FAX で申し込みください。参加申込者についての必要事項は必ず全員分記入してください。締切日以降も定員に余裕があれば受け付けますので、お問い合わせ下さい。

Web : <http://www.juce.jp/kenshu/kisoko2011/>

FAX:03-3261-5473（お問い合わせ Tel:03-3261-2798）

9. 参加費の支払い

参加費は、大学ごと一括して**7月1日(金)**までに銀行振込によりお支払いください。

<振込先> リソナ銀行 市ヶ谷支店 普通預金口座

口座番号：0054409

名義人：私情協

シジョウキョウ

- * お願い：振り込み名義に「k23」の記号を追記願います。
- * キャンセルの場合は**6月30日(木)**までにご連絡いただければ振り込み手数料を差し引いた参加費を返金します。それ以降のキャンセルは、資料代等の実費を請求します。
- * 当日のキャンセルは、ホテルのキャンセル料が100%発生しますのでご了承願います。

10. プログラム概要

(1) イントロダクション

テーマ：「大学職員に求められる能力」

木村 増夫氏（上智大学学生局長、大学職員情報化研究講習会運営委員会委員長）

本コースのねらい、大学の使命、大学職員に求められる能力や姿勢について説明し、研修を始めるにあたっての基本的な認識の共有を図る。

(2) 講義

講義-1：「大学運営と情報の活用」

講師：齋藤 真左樹氏（日本福祉大学執行役員、大学事務局長）

大学は、教育・研究の成果をはじめとして情報の宝庫といえる。しかしその情報は活用されなければ意味を持たない。情報を活用するためには情報環境の整備もさることながら、それを活用する能力が問われる。高等教育のユニバーサル化、グローバル化、大学認証評価と教育の質保証など、大学を取り巻く環境変化に迅速かつ柔軟に対応するために、情報を最大限活用することによって、教育改革、業務改革、経営支援などを行う時代である。

学生・教員に、より充実した学問・研究の場を提供し、大学の使命を果たすために、大学運営の根幹を支える情報の活用の重要性について、経営戦略や組織改革など、組織における意思決定のプロセスを中心に、本学の事例も紹介しながら解説する。

講義-2：「情報技術を活用した教育支援・人材育成支援に求められるもの」

講師：齊藤 和郎氏（札幌学院大学教務部事務部長、大学職員情報化研究講習会運営委員会副委員長）

教育改革を推進する手段として、情報技術の活用は有効である。一方で、単に情報技術を導入しただけでは本来の目的を達成できないことも確かである。

目標を明確化し、その到達度を適正に評価・分析し、次の改善につなげていく。こういったプロセスを教職員の組織的な連携によって展開し、例えば、「自分たちの大学も変わることができる」、「何よりも自分たち自身が変わることが大切だ」という気づきの中で人と組織がともに変革していくような場の形成が求められているのかもしれない。

本講義では、先行事例を参照しながら、情報技術を活用した教育支援・人材育成支援を展開する際に、わたしたち職員が備えるべき視点、担うべき役割について受講者と一緒に考えてみる。

(3) グループ討議

1) オリエンテーション

グループ討議を稔り多いものにするため、創造技法の基本や討議への心構えについて解説する。

2) 討議

4つのステージに分けて段階的に行い、最終日に成果発表を行う。各ステージに到達度評価項目と指標を設け、自己評価により到達度を確認する。(各ステージの時間配分はタイムテーブル参照。)

第1ステージ

職場における課題の洗い出し、グループ討議のテーマ（課題）設定を行う。

- テーマ例)
- ・「職員力」向上のための情報活用と自己研鑽
 - ・学生によりよい学修環境を提供するための情報・情報技術活用
 - ・戦略的な大学運営を支える情報基盤のあり方 等

★到達度評価

- ・ 課題発見能力：大学が抱える諸問題について、その本質的な課題を探るため、多様な観点から事象を分析しようとする態度を持つ。

第2ステージ

選定したテーマについて、創造技法を活用して問題点の掘り下げを行い、解決策を検討する。

★到達度評価

- ・ 創造的思考力：課題解決を図るため、独創的かつ斬新なアイデアを提示し、創造的な議論を促そうとする態度を持つ。
- ・ コミュニケーション能力：他のメンバーの意見やアイデアを尊重し、議論を発展させるためお互いに協調しようとする態度を持つ。

第3ステージ

グループとしての結論、発表資料をまとめるとともに、研修で得たものを、各自、振り返る。

★到達度評価

- ・ スキルを使う姿勢と態度：討議を通じて学んだ成果を認識し、これを常に磨きながら、自身の大学の教育改善に使おうとする態度を持つ。

第4ステージ

成果の発表、他グループとの意見交換を行う。

★到達度評価

- ・ プレゼンテーション能力：グループでの討議内容を他のグループに分かりやすく伝えるため、相互に協力しながらポイントを取りまとめ、簡潔に発表する。
- ・ 人的ネットワーク：大学に戻ってからもメール等で交流を続け、相互に刺激し合えるような人的ネットワーク（人脈）を形成する。

(4) アクションプランの作成

本コースでの学びの成果を自大学においてどのように活かしたいか、これを具体的な行動計画（アクションプラン）としてまとめる。

1日目

12:00	受付
12:45	イントロダクション (講師・運営委員紹介)
13:05	講義①
14:00	休憩
14:10	講義②
15:05	休憩
15:20	グループ討議 オリエンテーション
15:50	事務連絡・移動
16:00	グループ討議 第1ステージ
17:00	チェックイン 休憩
18:00	夕食・懇親会
19:30	フリーディスカッション

2日目

09:00	グループ討議 第2ステージ(1)
10:30	適宜休憩
12:00	昼食
13:00	グループ討議 第2ステージ(2)
15:00	適宜休憩 (進捗状況の確認)
18:00	夕食

3日目

09:00	グループ討議 第4ステージ(1) 発表準備
09:30	グループ討議 第4ステージ(2) 成果発表(1)
10:30	休憩
10:40	グループ討議 第4ステージ(3) 成果発表(2)
12:00	アンケート記入 アクションプラン記入
	解散

各職員が身近に感じている問題が大学全体の問題とどのように繋がっているかが、ディスカッションの実践を通じて明らかにできたと思う。今後、大学に戻ったときには自分の身近な問題がどう大学全体の問題とつながっているのか、あるいは、身近にあったとりにくみが大学全体として、どういった狙いがあるのかといった点を意識することで役立てたい。(30代 A 班)

職員間の情報共有が出来ていなく、迅速な対応ができない問題点があった。自分の仕事が精一杯で他の方の仕事が把握できていなかった。これからの業務に於いて常にアンテナを張り自分の仕事以外にも積極的に関心も持ち、情報収集をしていきたいと思います。(20代 A 班)

人的ネットワークの構築はもちろんだが、大学職員としての課題発見能力、創造的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力のすべてが学べる研修であると思った。(20代 B 班)

情報技術をいかに整備するかに目がいきがちで、肝心なそれをいかに戦略的に活用するかという視点が軽視されていることを改めて認識させられた。(30代 C 班)

グループ研修は日々の業務に生かせるようなきっかけを多く与えられたと思う。”このような場合はこう考えたり、あのケースではあのように考えたり”と、より深く考えられる癖を付けられそうです。全国から集まり各地方の意見を聞いたことは自分にとってプラスになりました。(20代 D 班)

自分がしている業務の問題点について、これ程深く考えたことはありませんでした。県内の大学はどうかという視点から、全国の大学はどうかという視点に変わりました。問題からその解決のためのプロセスそして改善までの話し合いがとてもうまくいったと思えます。(20代 D 班)

職員になっての早い段階でブレインストーミングや KJ 法を使ったグループ討議に参加でき、非常に有意義な研修だった。また、人的ネットワークの交流もでき、今後の業務に生かしていきたい。(20代 D 班)

他大学の情報を聞くことで、自大学にも生かせる点がある、足りていない点はまだまだあると感じました。大学職員としてどのような姿勢で日々の業務を行っていくか、そして大学を良くする為に私自身ができることをしっかりと考えて今後の業務に生かしていきたいと思えます。(20代 E 班)

長時間のディスカッションを通し、自分自身と深く対話することができた。単なる「会話」ではなく、深く一つひとつの問題を掘り下げて議論して行くことは、大学職員として身に付けておくべき基本的な能力であると感じた。(20代 E 班)

常に今現在ある問題点を探り、見つけ、改善、向上にむけて新しい発想をする必要があることを学んだ。(20代 E 班)

大学職員になって3ヶ月ほどしかたっていない私にとって、とても勉強になりました。それぞれの大学が抱えている問題や課題をお互いに出し合って、それらを解決するにはどのようにしたら良いかなど、全国の私学職員の方々と議論しあう機会は少ないと思うので、参加して本当によかったなと思えます。情報活用の重要性を学び、今後、大学で働いていく上で役に立てていきたい。(20代 F 班)

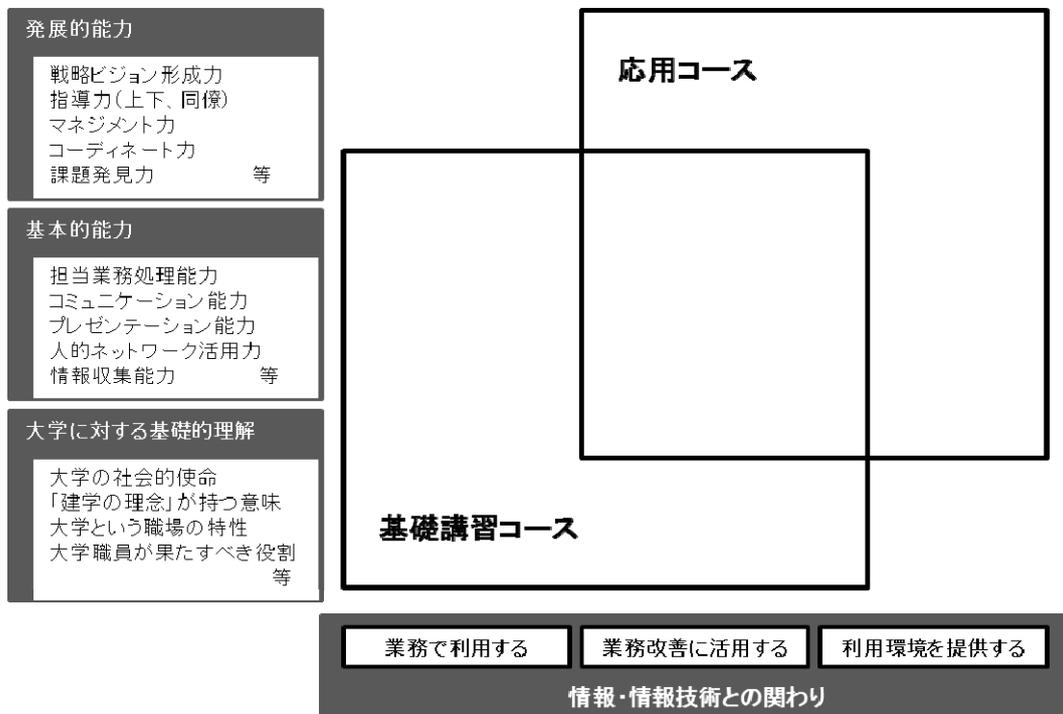
社会人基礎力の一つとして言われている考え抜く力を鍛えてもらったと思えます。アイデアが枯れ、疲れて何も思いつかないと思うときも話し合いの場から逃げないでテーマや課題を 5W1H などの視点で考え、もう一息搾り出すような努力、考え抜くことを、体験をもって学べた。業務でもこういった作業をすることが多々あるので新人なんだろう、いいわけに隠れないで力を発揮したいです。(20代 F 班)

私立大学情報教育協会 大学職員情報化研究講習会について

本研究講習会では、「情報」の持つ意味と可能性ならびに活用にあたって留意すべき点を理解するとともに、大学の課題を解決するための「情報活用戦略」について考え、行動できる職員を養成するため、次の2つのコースを用意しています。

【参加対象】

基礎講習コース(7月開催)	応用コース(11月開催)
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 所属部署は限定しません。 ✓ 新人や他業種からの転職者には大学という職場や職員の役割を学び、中堅層や管理職には自大学、自己の職場、自己の役割を振り返り、情報活用とそれによる問題解決についての研修機会を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「基礎講習コース」への参加経験は問いません。 ✓ 所属部署は限定しません。 ✓ 中堅職員（採用後おおむね3年以上）を対象として、テーマに興味・関心のある方、自大学での課題解決のために情報収集を必要とする方などを対象とします。（すべてのテーマにおいて教職協働が重要な課題であることから、教員の参加も可能です。）



本年度の応用コースは次の日程、プログラムで開催する予定です。開催要項は9月上旬に各大学に送付いたします。

◆応用コース(予定)

日程：平成23年11月9日(水)～11日(金)

会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）

概要：次のテーマ（案）で分科会を編成し、事例研究と新たな情報活用モデルの創出を行います。これを通じて、自大学における課題解決に求められる重要な視点と実践的スキルの獲得を目指します。

- ・ 学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用
- ・ 教職協働で進める教育支援のマネジメント
- ・ 大学情報のオープン化と ICT 活用
- ・ 教育学習支援の充実と強化を図るための図書館の役割と機能
- ・ 情報活用の重要性和情報システム部門の役割
- ・ 教職員・学生間のコミュニケーションを活性化する ICT 活用戦略